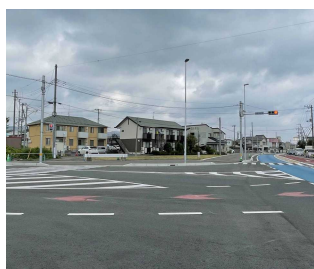


八 反 遺 跡 (はったんいせき)

■■■ 奈良時代・平安時代の集落跡 ■■■

都市計画道路「鮎川停車場線」整備事業（2023年5月に開通）及び一般国道6号日立バイパス事業（開通未定）に伴い、2018年から2022年にかけて茨城県教育財団により発掘調査が行われ、奈良時代、平安時代の集落跡であることが明らかになりました。

■ 国道245号西側 (国分町1丁目) 658㎡



- * 鮎川と桜川に挟まれた標高23mの台地縁辺部
- * 主な遺構・・・竪穴建物跡6棟、掘立柱建物跡3棟、柵列跡1列、溝跡4条、炉跡1基、土坑60
- * 主な遺物・・・土師器（坏・高台付坏・甕・長頸瓶）、須恵器（坏・高台付坏・高盤・蓋・甕・甑・長頸瓶）、灰釉陶器（長頸瓶）、土製品（紡錘車・管状土錘）、石器（砥石）、鉄製品（釘・鎌・鍋）

■ 国道245号東側 (国分町3丁目) 4,989㎡



写真：上 国道245号西側
(鮎川停車場線との交差点)
下 国道245号東側

- * 日立市中央部太平洋岸の標高22m前後の海岸段丘上
- * 主な遺構・・・竪穴建物跡11棟、掘立柱建物跡2棟、土坑190基、溝跡7条、柱穴列1条、ピット群1か所、性格不明遺構5か所、遺物集中地点1か所、遺物包含層2か所
- * 主な遺物・・・土師器（坏・高台付坏・甕）、須恵器（坏・高台付坏・蓋・盤・甕）、灰釉陶器（坏・瓶類）、金属製品（釘・銭貨）、鉄滓

これらの遺構や遺物から、八反遺跡は奈良時代末から平安時代前半のものであることが推測されています。また、人々の生活の営み（住居や生産活動、踏み固められた道など）も推測されます。

特に東側遺跡では、土地を区画するための溝跡や、大型の炉を伴う遺構などが確認されており、規則的に並んで作られた5基の炉跡から、用途については不明ですが、平安時代に、集落内において大規模な生産活動が行われていたと考えられます。現在の油縄子学区が工場の街でもあることから、古からのゆかりを感じさせてくれます。

残念ながら道路の整備事業に伴い発掘現場は埋め戻され現在は見学することはできません。

《 このページの記載内容「発掘情報いばらき」（茨城県教育財団）より 》